

梶川琴音さんのプレゼンテーションの感想

プレゼンを聞いて、自分も将来についてすごく不安だったのですが、一度社会に出た後でも留学や学びの選択肢があると知って、少し安心しました。きっと何かあった時にこの話を思い出さずにはいられないと思います。また、私は広島生まれで平和公園に何度も訪れていましたが、それがドイツのホロコーストとつながることは考えたことがなかったので、その点がとても興味深かったです。それを通じて、研究内容に対する関心が深まりました。ぜひその研究を頑張ってほしいと思います。

ドイツ語を学ぶことを決めきっかけや留学の（一つの？）理由は、ドイツの著名な音楽家の足跡に現地で触れたかったからとおっしゃっていましたが、実際に現地に行かれた結果、ホロコーストとの向き合い方という全く新しい分野に関心が生まれ、その後の方向性に大きく影響したというお話は非常に興味深かったです。私は文学部ドイツ文学科に進む予定なのでそこそこ現段階でもドイツ文化に興味がありますが、実際現地へ行くと全く新しい分野に出会うことができるかもしれない、ということを考えると、留学を本格的に検討してもよいのかもしれないと思いました。

人生は一度きり、周りからは遠回りに見えても自分のやりたいことを、という思いが伝わってきました。私は大学入学後、本当に研究したいことは違うかもと考えて教育学部から総合科学部に移るという経験があり、実感を持ってそのお考えに共感しました。学部卒業後に一度就職してから大学院に入るという経験をした方は少ないと思いますが、今回はそのお話を伺えるととても貴重な体験で勉強になりました、ありがとうございました。

自分もクラリネットという楽器中学生の頃からしていて、それもきっかけでドイツ語を選択したので、とても親近感が湧きました。これから大学を卒業してからの進路を時々考えるのですが、私も、失敗しないようにしないと、と考えてしまっていたので、院に行くか、就職するか、の2択で人生が決まるわけではないとわかり、ホッとしました。また、ドイツ語が研究にも生きたとお話されていたように、すべての授業がなにか自分の糧になると思いつつながら受講することが大切だとわかりました。

リスクを取ってでもいろいろな経験をして自分のやりたいことをしている梶川さんは本当にすごいと思いました。私はいつも失敗をすることが怖くてリスクをなるべく取らないように物事を選択することが多かったのですが、これからはいろいろ挑戦してみようかなととても勇気づけられました。

私自身第二次世界大戦中の出来事に興味を持っていたので、梶川さんの研究テーマに関するお話やドイツで実際に見聞きした体験談がとても興味深かったです。これまでは第二次世界大戦について特に日本を中心とした太平洋戦争に着目することが多かったのですが、いつかドイツでホロコーストについて直に学んでみたいと思います。社会人としての安定よりもご自身の関心を突き詰めようと決意するのは決して簡単なことではなかったはずなので、一度きりの人生というフレーズにより重みを感じました。

事前に先生のほうから、大学を卒業して社会人経験をし、それからまた院に戻った方の話が聞けると紹介があったので楽しみにしていましたが、想像以上に自分のやりたいことにまっすぐで芯のある方だなと思いました。広島でサミットがあったことを知って、平和の活動や研究に自分も携わっていたと思うとおっしゃっていましたが、そのように考えられることに感動して、私もゆくゆくは自分の興味のあることを見つけて、この方のように自分と向き合う生き方をしたいと思いました。

進路についての不安感にとても共感しました。人生は1度きりしかないから、多少のリスクがあってもやってみる、という精神が伝わってきて自分もいろいろなことにチャレンジしてみようと思えました。また、留学先で見たホロコーストが研究につながったとおっしゃっていたことから、一見興味のなさそうなものでも試してみることや多角的な視点を持つことの重要さを感じました。

梶川さんの研究についても非常に興味深かったですが、それ以上にリスクを取りながらも研究に取り組む様に心を打たれました。「人生は一度きり」というありふれた言葉にもものすごい重みを感じました。これからは後悔しない生活を、これからはリスクを恐れずに様々なことにチャレンジしようと思いました。本日はありがとうございました。

就職してからリスクをとっても自分のしたいことに向き合っている点はすごいなと思いました。自分も就職のことを考えたら不安になって安定した職につくほうがいいのかなど思ったりするので、とりあえずチャレンジできる時にしとこうと思いました。

自分は今のところ学部を卒業したらそのまま就職しようと考えていますが、梶川さんの話を聞いて就職してからまた大学院に行くのも一つの手段だと認識することができました。一度就職したからこそ考えられるようになったこともあると仰っていたのでもし自分が梶川さんと似た立場になった時は本当にやりたいことのためにリスクを顧みず取り組んでみようと思います。

社会人での経験を経てから大学に戻るといふ決断をすることはとても難しいと考えていました。あえてリスクを取るという姿勢がかっこいいと思いました。ドイツの人たちのホロコーストに対する考えを知ることができてよかったです。私は平和科目で記憶学を取っていたので、証言をどう残していくかといったことに興味を持ちました。

私は将来平和学について学びたいと思っており、大変参考になりました。自分は大学院へ進学したいと考えておりますが、経済的に厳しく、親からも就職しろと言われており、進学を諦めていましたが社会人を経験してから大学院に進学したと聞き励みになりました。

自分は、梶川さんのお話で特に、印象に残ってるのが「人生は一度きり」という言葉です。梶川さんは、一度社会に出られてからもう一度大学に戻ってくるという一般の人の人生とは異なる道に進まれるという決心をされていて自分の人生を世間の当たり前に流されず生きている姿を自分も見習いたいと思います。本日はありがとうございました。

大学院について自分も考えているので社会人時代を経験した後に大学院に進む道もあるんだなと自分についても考えることができました。また短い期間の留学でも大きな影響や変化があると分かって留学について考えるいい機会になりました。発表ありがとうございました。

在学中に留学に行かれたり、大学院へ行かずに一度社会人として働く選択をとられたりと全く自分にはない視野の広さを持っていてとても勉強になりました。自分も色々なことをやってみて何か自分のやりたいことを見つけられるといいなと思いました。

一回就職して社会人を経験した後に、大学院へ戻る決断をされたというお話を聞いて、将来の展望について考えると同時に何事にも挑戦する姿勢が大切なのだと感じました。

一度社会に出てから大学院に進学するという道もあるんだなという発見になりました。また、ドイツ語を学び始めた理由がなんであっても、まわりまわっていつか自分の人生に役立つということがわかりました。リスクをとって自分の人生がより良い方向に向かうような行動を心がけたいです。

戦争の記憶継承やホロコーストについてお話しされている時の少し陰しく真剣な表情や語り方が印象に残っています。そしてそれはこれらの研究が決して簡単なものではなく辛いことを考えさせるものでもあるのだと思いました。また梶川さんの生き方がすごく自由でまっすぐなところに惹かれました。梶川さんのお話は、こうあるべきだ！という固定概念を砕いて下さるものでした。貴重なお話をありがとうございました。

梶川さんのプレゼンを聞いて、社会に出て働くことの厳しさと大切さに気付けたような気がします。私が思い描いている将来と重なる部分があったので、自分のことのように話を聞けました。私も、大学卒業後にいったん就職してから、もう一度大学に入って新たな学問を学びたいと考えています。一度社会に出てみることで、本当に自分のやりたいことに気づけるといったメリットがあるということに気づけました。梶川さんのプレゼンを聞いて、人生は一度きりしかないので、少しは危険を冒してでも、自分のやりたいことに挑戦しようと自信を持つことができました。

就職してから大学院に進学するという大きな決断に驚きました。自分のしたいことをするのはリスクも伴うと思いました。ドイツに行った経験が大学院進学に影響を与えたとのことだったので、自分も大学生のうちに経験できることをしておきたいと思いました。